

一般質問

・御前崎地区センターの現状と今後について



川口純男

**問** 御前崎地区センターは、御前崎町時代の昭和50年頃に完成しましたが、これまで一度も耐震補強工事が施されていません。どうして耐震工事を行わないのか、安全であると判断しているその根拠を教えてください。

東海・東南海地震は、10年前の東北大地震と違い、地震発生域が陸岸に近いため数分で津波が来るといわれています。地区センター敷地内には津波避難タワーが設置してありますが、東北大地震を考慮すると、このような高さ、規模で十分なのでしょうか。

**答** この先を考慮しますと御前崎地区センターの安全な場所への移転は、最重要課題といえます。地震はいつ起こるのか、現代の科学では予測不可能で、一刻も早い移転が必要であります。地区センターの移転・新築の計画があるかどうか御前崎地区センターは老朽化が進んでいるものの、センターの運営に支障をきたすことのないよう維持管理しております。

しかし現在の建物は、耐震化工事を実施しておりません。これは平成27年に前市長から高台移転の方針が示されたことにより、それ以降、施設の大規模修繕工事などは実施しないこととしたもので、本地区センターが、予想される大規模地震に十分耐えられる安全な施設であるという認識に基づくものではありません。

次に津波避難タワーにつきましては、地上から最上階避難スペースまでの高さ12m、収容人員100名となっております。この付近の想定津波浸水深は約6.5mで、タワーの方が5mほど高くなっております。

最後に御前崎地区センターの今後につきましては、建物が津波浸水想定区域に位置していることから、高台移転が必要であると認識しております。しかしながら、今後とも厳しい財政状況が続くと見込まれるため、公共施設の統廃合や空き施設の有効活用を長期的な視野に立ち、検討してまいります。

一般質問

・市民との話し合いの場について



丸尾 忠

**問** 浜岡砂丘西に計画された大規模産廃施設が取り止めになったことを市民の皆様そして市長に心よりお礼を申し上げます。今回のことで多くを学びました。

**答** 風通しのよい市政の実現と市民参加、住民本位の市政を推進していくために、直接市民の声や意見を聞く機会として「まちづくりふれあいトーク」と名称を変え毎年実施してまいりました。

市民の皆様は、残念ながら新型コロナウイルスに伴い、まちづくりふれあいトークの開催を断念し、代わりに「ひらめき提案箱」を活用して、市民の皆様から提案をいただきました。本年度の「まちづくりふれあいトーク」につきましては、市内で感染者が確認されていることや、秋の祭典もやむなく中止した地区もあると伺っておりますので、現時点での開催の判断には至っておりません。

しかしながらコロナ禍での「新たな広聴」の在り方を模索し、何らかの形で広聴活動を実施してまいりたいと考えております。



'21年3月30日 新野川堤防